

私たちの町を守る



家族を守り、仲間を守り、町を守る

二宮町消防団長 渡邊 恒文



今年度より消防団長を拝命いたしました渡邊でございます。二宮町消防団は明治12年に一色村に整備された消防体制を始まりとし、本年度で141年を迎えます。伝統ある二宮町消防団を率いることに、大変身の引き締まる思いです。全力を挙げて職務に邁進する所存であります。

二宮町消防団は、火災など通常火災害の対応においても、大きな役割を果たしていることから、近隣市町村の消防団に比べ訓練や災害対応のための出動回数も多いことも事実です。このような環境の中、多大なるご理解・ご協力を頂いております。団員のご家族の方には深く感謝しております。

さて、まだ終息を見せないコロナ禍の中、日々悩みながら取り組んでいるところです。団員の安全確保はもちろんのこと、ご家族の理解も得る必要から、制限した活動となる一方で、災害発生時に即時対応できる体制を維持する必要があります。このため、4月の就任直後には、第一分団の神奈川県操法大会出場に向けた訓練の中止、各種訓練の参加人数の縮小などを決断せざるを得ませんでした。その後、制限を解除しながら災害に備えた訓練を実施しましたが、日々変化する状況に即時対応できるよう、警戒レベルにあわせた活動指針を策定いたしました。

訓練以外の各種行事を中止する一方で、団員からの発案による水害に備えた土壌づくりをはじめ、風水害など大規模災害を想定した訓練に新たに取り組んでいます。大規模災害発生時において、消防署との密な連携をとることで、切れ目のない対応を実現します。二宮町の全消防力を効果的に最大化し、町民の生命・財産を守るためのさまざまな検討や訓練を、消防署の強力なご協力のもと進めているところです。

引き続き、皆様方のご指導、ご支援を心からお願い申し上げます。

※感染予防対策として、訓練前には検温と消毒を実施しています。原則マスクを着けての訓練ですが、放水訓練など体力を消耗する活動の際には団員の健康を考慮し、マスクを外すことがあります。



新たな8人の仲間の声

第一分団 (川匂・釜野・越地・茶屋・梅沢)



諸先輩の熱い思い 松本 裕太

私は二宮の出身で二宮町の地域福祉に携わる仕事をしています。梅沢地区に引っ越してから、消防団に入団しないと熱心なお誘いがありました。これまでも地域の活動には参加しておりましたが、今とは違った形で地域に貢献できないかと考え、子どもが小学校入学と同時に入団させていただくことになりました。入団前、諸先輩から消防団の魅力や活動の内容を教えていただき、不安なく入団することができたように思います。

入団すると、覚えることが多く、活動内容の幅の広さに驚きましたが、諸先輩の熱い思いと丁寧な指導を受け、徐々に慣れてきたように感じています。入団当初、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動が自粛されるような状況でした。そのような中でも、何かできることを模索している先輩たちの姿を見て、真剣に町を守ろうとする意識が高いのだと実感できました。地球温暖化の影響で、今まで経験したことのないような災害が起こる可能性があり、消防団の役割の重要性が増してくると思います。諸先輩たちの指導を真摯に受け止め、基礎的な動作を確実に習得しながら、一人前の消防団員になるよう努力していきたいと思っています。

第二分団 (上町・中町・下町)



家族を大切にする 内海 央人

生まれも育ちも二宮町です。小さい頃、父親が夜に訓練に出かけ、時には火災発生時に出勤する背中を見ていました。いつか自分も消防団に入るだろうなど感じていました。そして昨年お誘いを受け、今年から新入団員として参加させていただきました。

自分なりに意気込んでいましたが、コロナウイルスの影響で訓練もなかなかできず、ようやく活動ができるようになったのは6月ごろ、同時に息子も産まれました。

まだまだ分からないことが沢山ですが、第二分団の先輩方にとっても丁寧に教えていただき、少しずつ動きや器具の扱い方などを覚えられるようになりました。また、活動をしていく中で「家族を大切にする」とを改めて教えていただきました。まだまだ先輩方の足元には及びませんが、これから訓練に参加して地域に貢献し、家族を守れるよう頑張っていきたいと思っています。

第五分団 (一色・緑が丘・百合が丘2・3丁目)



新たな人との繋がり 秋澤 祐太

第五分団に入団して早10ヶ月経ちました。今年度は新型コロナウイルスの影響で訓練ができない時期もありましたが、今では定期訓練や機関点検など色々な活動ができるようになってきました。

入団当初は緊張の連続でしたが、様々な年齢の諸先輩方に囲まれ、厳しくも優しくもある様々な指導を受けながら、現在まで活動を行ってきました。今では、分団活動が生活にメリハリを与え、無くてはならない事のひとつとなっています。

分団の皆さまに出会えたこと、町の諸行事に参加して人の繋がりや歴史を学べたこと、そして有意義な防災活動に参加できること、分団活動では様々なことが得られると思います。



消防団員募集

町内在住・在勤で18歳以上の方(男女)
なら、どなたでも参加できます。

公務災害補償制度
被服の貸与
退職報償金
表彰制度

問い合わせ
消防本部 消防課
庶務班
☎72-0015

あなたの想いが、この町を守るエネルギーになります

第四分団 (中里・百合が丘1丁目)



あくまで仕事優先で 堀部 大貴

私は3年前に二宮町に移り住みました。消防団へのお誘いを受けたときは、活動内容もよく知らず、やはり仕事との両立が不安でした。しかし「あくまで仕事優先で」とのお言葉をいただき、地域に貢献できるのならばと入団を決めました。

丁寧なご指導を受けながら、器具の操法や動作の習得などに奮闘中です。覚えることが多く、体力的にも大変に感じますが、入団しなければ出会えなかった方々との交流を温かく感じたり、町についてまだまだ知らないことばかりだと気づいたり、発見が多いです。

少しでも町の暮らしが安心なものになるよう、日々努めていきたいと思っています。



想像を超えた活動 大曲 祐司

私は二宮町に住んで6年余りになります。妻の地元であるこの町で、かねてより自分も人との繋がりを持ちたいと考えておりましたところ、入団のお誘いを頂きました。

参加してまず感じたことは、団員の方々の知識、技術、そして何より活動への意識の高さです。計画の立案や活動の際の連携等、全てが素晴らしく、自分の想像をいつも超えています。

まだ数える程にしか参加できず、お役に立つには程遠い状況ですが、少しでも早く消防団員として貢献できるようになればと思います。まずは、足を引っ張ることが減るよう、そしていつかは諸先輩方に追いつけるよう、精進していきます。

入団のきっかけと入団後の気づき

新しく団員として参加していただいた8名の方々。入団を決意したきっかけ、思いを聞いてみました。また、入団した後、10ヶ月経った今、活動を振り返って気が付いたことを語っていただきました。

消防団員の父や祖父の背中をみて育った人、以前から消防団活動や地域貢献に興味があった人、消防団がどのような活動をしているのか知らなかった人、二宮町に引っ越してきた人など様々な人がいらっしゃいます。二宮町は消防団活動が活発で、防災に対して熱い思いを持った人が多いですが、家族を大切にしながらの活動であることが前提となっています。そのような環境の中、活動を通じて、やりがいや新たな人との繋がりを求めたり、自分の成長の場としてとらえている方もいらっしゃいます。

第三分団 (元町・富士見が丘1・2・3丁目・松根)



新しい環境に挑戦 桑原 優太

以前から消防団に興味があり、お誘いをいただける機会をきっかけに、入団を決めました。

最初は新しい環境に挑戦することに不安を感じていましたが、先輩団員の方々はとても気さくで丁寧に教えていただき、すっかり不安もなくなりました。

訓練で初めて筒先をやらせて頂いた時に、想像以上に水圧の勢いが強く全身に力が予想以上に入り過ぎてしまい、終わる頃には力が入らなかつたりと、経験したことのないことばかりで大変ですが、安全第一で頑張りたいと思います。



やりがいのある活動 宇山 郁巳

私は、今年度に入るまで、消防団等の防災組織に関わる機会がほとんどなく、初めての事柄が多いため、少しばかり不安を感じています。

しかしながら、今は不安だけではなく、新しいことを知ることへの楽しさや、地域のために活動するやりがいも感じています。

今後、訓練に参加していく中で積極的に知識や技術を習得したいと思います。少しでも早く、そして責任感をもって、いざという時の活動ができるよう尽力いたします。どうぞよろしくお願いいたします。



自分の成長の場 城所 真幸

私は、二宮町で商売をしていることや、父や祖父も4分団にいたことの影響もあり、入団を決意いたしました。入団後は、先輩の皆さまの熱く、それでいて丁寧なご指導により、少しずつできることが増えてきて、とてもやりがいを感じています。

新型コロナウイルスなどの影響もあり、体力錬成大会など楽しみにしていた行事などが中止になったり、まだ一年を通して活動はできていませんが、分団に入ることによって地元での人間関係が広がり、人として成長できる場所だと感じました。

訓練はとても大変ですが、有事の際に小さなミスが大きな事故になりかねないことなので、日々の訓練を大切に、一人前の消防団になれるよう努めていきたいと思っています。

安全で素早い消火活動



撮影：令和2年9月5日（日）神奈川県消防協会湘南支部訓練会

二宮町消防団では日頃より火災出動を想定した訓練を実施しています。平塚市消防署大野出張所で行われた訓練会では、初めての場所・火災想定での訓練でしたが、日ごろの訓練成果を生かして、迷うことなく安全で素早い消火活動を行うことができました。

動画もチェック



若い消防団員でも運転が可能な新型消防車両を2台配備

2017年3月12日以降に取得した普通免許で運転できる車両総重量3.5トン未満の要件を満たしており、オートマチック限定免許も含め若い消防団員でも運転が可能な仕様になっています。



第二分団：救助用資機材搭載型小型動力ポンプ積載車

- ・車両が入れない場所でも小型動力ポンプを降ろして消防水利を確保することが可能です。
- ・小型動力ポンプの他に、充電式電動油圧コンピツール、エンジンカッター、チェーンソー、油圧ジャッキなどを積載しているので多種多様な災害に対応できます。

第五分団：消防ポンプ車 普通免許対応車両総重量3.5t未満

- ・コンパクトな車両でありつつも、従来のCD-I型消防ポンプ車の放水性能を落とさず、従来通りの消火能力を発揮します。

※第四分団に前第二分団消防ポンプ自動車（CD-I型）を更新車両として配備しました。

消火活動から災害活動へ

近年の大規模災害の事例における消防団の延べ出動人数をみると、平成19年7月の新潟県中越沖地震では、12,300人、平成18年7月の梅雨前線による大雨被害では、長野県内で17,222人と防災や救助活動などに従事した消防団員数は非常に多い状況にあり、一度災害が発生した場合は、消防団の力が重要です。災害に対応できるよう、消防署と合同で第二分団に配備された救助資機材を使用した救助訓練や水防訓練など新しい訓練を行っています。



（左）油圧コンピツールによる車両からの救助訓練

（中）大規模風水害を想定した情報収集・対応訓練

（右）水害に備え、土嚢づくりの訓練を兼ねた各分団車への土嚢配備

令和3年

消防団活動の功績をたたえ表彰

※新型コロナウイルス感染症防止のため「令和3年二宮町消防出初式」は中止となりました。

神奈川県知事表彰 (勤続20年表彰)

職歴が20年以上で勤務成績が優秀であり、かつ他の模範となる団員に対する表彰



池田昌隆様
(前消防団長)

20年の長きにわたり奉職され、令和2年3月31日をもって退団されました。表彰基準日の都合上、退団後の授与となりました。

神奈川県消防協会 湘南支部長表彰

消防団活動に功績のあった消防団員に対する表彰



倉嶋 仁
(第4分団分団長)



上里 泰正
(第5分団分団長)

精勤表彰 (勤続10年)

(二宮町消防団表彰規程) 10年以上職務に精励し、成績が特に優秀な優良団員に対する表彰

- 原 勝弘 (第2分団分団長)
- 里見 拓 (第5分団班長)
- 白井 善之 (第5分団班長)
- 井上 大介 (第5分団班長)

家族功労表彰

(二宮町消防団表彰規程) 親子3代にわたり消防活動に従事され、消防団の発展に多大なる貢献をされた御家族に対する表彰



松本 隆治様
(元第4分団班長)

(昭和47年度～53年度)



松本 勉様
(元第4分団分団長)

(平成2年度～13年度)



秋山 広樹
(第4分団 団員)

(平成30年度)

精勤表彰 (勤続5年)

(二宮町消防団表彰規程) 5年以上職務に精励した、優良消防団員に対する表彰

- 安藤 正和 (第4分団班長)
- 大島 直人 (第1分団班長)
- 野地 洋正 (第2分団班長)
- 佐々木 善樹 (第2分団班長)
- 石渡 勝 (第3分団班長)
- 内海 亮二 (第3分団班長)
- 川名 義紀 (第4分団班長)
- 達林 弘明 (第5分団 団員)

退職消防団報償 (第2号報償)

(消防庁告示) 在職15年以上の方が対象となり、長年にわたり消防団活動に御奉仕された方に対し、消防庁長官より、感謝状及び記念品が贈呈されます。



池田昌隆様
(前消防団長)

平成元年4月に入団されて以降、20年という長きにわたり消防団活動に従事されました。平成30年からは消防団長に就任し、消防団をまとめるとともに、その職務と併せて神奈川県消防協会副会長、湘南地区協議会会長及び湘南支部支部長の職務をまっとうされ、令和2年3月31日をもって退団されました。



井上 幸彦様
(前第5分団分団長)

平成17年4月に入団されて以降、15年という長きにわたり消防団活動に従事されました。平成30年からは第5分団分団長に就任し、第5分団をまとめるとともに、災害現場では的確な判断力に対応し常に分団の士気向上に努め、かつ団員の安全確保に尽力を注ぎ分団長としての職務を遂行し、令和2年3月31日をもって退団されました。



新型コロナウイルス感染症防止のため「二宮町消防団入退団式」(令2年3月29日)は規模を縮小しての開催となりました。退団された方々のこれまでの献身的な御活動に深謝するとともに、今後のますますの御活躍を祈念いたします。併せて、式典にて表彰された方を紹介します。

精勤章 (勤続10年)

(神奈川県消防協会表彰規程) 10年勤務した者で、職務に精励し消防の使命達成に努力した者に対して授与

保科 武史 (第3分団副分団長)

精勤章 (勤続5年)

(神奈川県消防協会表彰規程) 5年勤務した者で、職務に精励し消防の使命達成に努力した者に対して授与

- 村田 秀行 (第1分団班長)
- 西亮 太郎 (第1分団班長)
- 前川 健雄 (第1分団班長)
- 金子 裕司 (第2分団班長)
- 池田 真一 (第3分団班長)
- 林 賢史 (第4分団班長)
- 井上 辰則 (第5分団 団員)